

工場内に「安全道場」開設

“危険体感”で事故防止へ

五十鈴グループ（本社・東京都千代田区、社長・鈴木勝氏）で北関東地区のコイルセンター事業を展開する五十鈴関東の太田サービスセンター（群馬県邑楽郡）は、工場内に「安全道場」を開設した。約10種類の危険体感装置と5種類の座学ブースを併設し、パ

トを含む全従業員に対し、上期と下期の年2回受講する安全カリキュラムを開始した。知識不足や慢心による事故を防ぐため、実際に「危険を体験」して安全意識を底上げする狙いだ。安全道場には製造現場特有の災害を想定した装置が並ぶ。手袋やタオルなどの回転体・チェーンへの「巻き込まれ」、鋼板による「切創」、10キの重り

策は座学だけでは限界がある。危険を体感できる装置を通じて、実際の現場での安全意識がより一層高まる」と意義を強調する。同センターでは事務員が工場に入る際の装備義務化を徹底するなど安全を「最優先課題」に挙げる。7月2日で無災害1千日の大台を達成した。

「安全」への取り組みとして施設活用を呼び掛けており、社外からの受講も随時受け付けている。今年はすでに3社が受講したという。五十鈴グループが掲げる「協進化」の一環として同グループ内だけでなく、同業他社や取引先などへも安全意識の高まりの輪がさらに広がることが期待される。受講などに関する問い合わせは、五十鈴関東太田サービスセンター安全道場（電話0276-88-3511）まで。

中根稔太田サービスセンター長は「安全対

